

点眼液

おそらく、そう
見なければ、信じなくなる
見ても忘れる
思い出すときまで、うたがう
信じなくなる

記憶にないものは
果たして、夢だったかもしれない

ミケルナ配合点眼液

2. 5mL

わたしの机には抽斗がない
抽斗はべつの場所にあって
段ボール箱を二つ積み重ねた上にあって
その中に
外国の古銭や古いパスポートといっしょに
ダ・ヴィンチ村のダ・ヴィンチの生家の外壁の欠片が入っている
でも、すぐには探し出せない
わたしの机にはカップルーペを抱きこむようにして
安ものの腕時計が巻きついている
文字盤がこちらを向いていて
秒針がちくちくうごいている
いまだにまだ、うごいていて
残暑がきびしく、わたしの上半身が素はだかである
のを、
石打つ胸板を
あごが見下ろしている

点眼液そのものに、数はない
差すと瞬時に
数が生まれる
一滴、
一はまず最小単位であろう

差すときのかげんによって、それは大粒、小粒...
——眼圧は安定していますよ
——見え具合はいかがですか
《聖ヒエロニムス》の首が帰ってきました
挿げ戻された首は変色して赤く
古いパスポートを口に咥えて、見る人の視線を避けて、
見る人の好奇心を拒んで

同情を、
というか、あらゆる種類の感情をしりぞけて
薬液を一滴、垂らすと
聖ヒエロニムスの網膜がうるおい
右足の親指と人差し指のあいだのすきまが
ひらく

おそらく、そう
見なくても信じたくなる

記憶にないものは
あした見る夢かもしれない

作／かがわますみ

※注 1. 聖ヒエロニムスについて

紀元4世紀のダルマチアの聖人。レオナルド・ダヴィンチの石で胸を打つ聖人のデッサンなどで有名。